

2022年5月10日

社会技術研究開発事業
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査 事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

太田 紘史 (新潟大学 人文学部 准教授)

2. 課題名

脳の越境と融合にまつわる倫理とその認識的ダイナミクスの検討

3. 実施期間

2021(令和3)年10月1日 ~ 2022(令和4)年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況

本企画調査は、BMI、BBC、脳オルガノイドなどの神経科学技術を対象に、「心の認識」と倫理的課題との関係性・相互作用を探る調査実験を通じて、「脳の越境と融合」という視点から ELSI を検討する新しい方法論開発の構想化を目標として実施されたものである。本プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、(1)実験哲学の立場から ELSI/RRI 研究にアプローチする意義と研究開発構想の明確化、(2)RRI 研究として実際の研究・技術開発現場と連携・協働する実施体制の模索、(3)脳科学関連技術に係る ELSI の国際的議論水準を踏まえた問題設定や仮説構築、などの点を期待した。

企画調査の結果、複数のモデルケースについて、論点整理に基づく仮説設定の上、実験的検討を行い、人々の倫理的懸念と認識についての実証的エビデンスが一定程度得られた点は高く評価できる。また、研究開発構想の具体化に必要な実証的知見の蓄積のみならず、研究・技術開発現場との連携の模索などについても順調に進んでいることから、本企画調査の目標は概ね達成したと評価する。

なお、対象とする脳科学関連技術については、AI のような機械的装置 (人工物) との組み合わせという現実的な技術開発の方向性にも配慮する必要がある。また、企画調査で得られた成果が、「意識」概念の定義とそれに対する態度・取り扱い方などにおいて、社会的・文化的・宗教的な差異などを視野に入れた分析へとどう展開されうるのか、さらなる検討を期待するところである。

研究手法や連携する分野の拡張可能性も視野に入れつつ、規範的議論と記述的な実証研究の成果をいかに接合するのか、そのモデル提示という点からも、挑戦的な研究開発構想の具体化が進展することを期待する。

以上

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループチームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB ディレクター

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 理化学研究所 理事／東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士
／九州大学 グローバルイノベーションセンター 客員教授

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職は2022年3月末時点)